

平成25年度東北地域マッチングフォーラム

**忍び寄る脅威から産地を守る**  
**ーウリ科野菜ホモプシス根腐病の総合防除対策ー**

プ ロ グ ラ ム

平成25年12月9日(月) 13:00~17:15

(受付開始 12:00)

ビッグパレットふくしま 3階 中会議室

(福島県郡山市南2丁目52)

主催 農林水産省 農林水産技術会議事務局  
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター

協賛 農林水産省 東北農政局

後援 福 島 県  
JA全農福島  
NOSA I 福島  
東北地域農林水産・食品ハイテク研究会  
日本農業新聞

# 平成25年度東北地域マッチングフォーラム

## 忍び寄る脅威から産地を守る

### — ウリ科野菜ホモプシス根腐病の総合防除対策 —

全体司会

農研機構東北農業研究センター 企画管理部長 石黒 潔

#### 1. 開 会

13:00

#### 2. 挨拶

13:00~13:15

農林水産省農林水産技術会議事務局  
農研機構東北農業研究センター所長  
福島県農業総合センター所長

#### 3. 話題提供

##### (1) ホモプシス根腐病の特異性と総合防除対策の考え方

13:15~13:35

農研機構東北農業研究センター 環境保全型農業研究領域 主任研究員 永坂 厚

ウリ科野菜ホモプシス根腐病は、日本では1983年に初めて発生が認められた新しい病害で、2000年代になってから東北地域のキュウリやメロンで発生が拡大しつつある。本病は土壤伝染するが、病原菌が少量存在しても地上部に症状が出ない潜在的な汚染圃場が存在するため、ウリ科野菜産地にとっての「見えざる脅威」となっている。そこで、この病気から産地を守るために、予防的な対策の基礎となる圃場診断と、土壤改良資材の施用等による被害低減対策の2本柱から構築した総合的防除対策について概説する。

##### (2) 福島県須賀川地域の露地キュウリ産地における発生状況と これまでの対策—土壤消毒と転炉スラグ導入の実施状況—

13:35~14:15

福島県農業総合センター 生産環境部 副主任研究員 宍戸 邦明  
福島県県中農林事務所 須賀川農業普及所 主査 三好 博子

福島県は全国でも最大の夏秋キュウリ産地である。2001年に東北地域で初めて本病による被害が確認された後、発生地域が県内全域に拡大し、重大な問題となっている。本病の被害が発生した圃場では、クロルピクリン剤による土壤消毒が有効な対策であるが、経費や労力等の面から負担が大きいため、転炉スラグを用いた被害軽減策が検討された。東北地域で本病の発生が早くから確認され、被害が顕在化した地域における対策について、研究と普及の現場から報告する。

##### (3) 露地キュウリ産地における転炉スラグを用いた被害軽減対策

14:15~14:45

岩手県農業研究センター 環境部 主任専門研究員 岩館 康哉

東北地域で福島県に次ぐキュウリの産地であり、本病の被害顕在化も早かった岩手県では、潜在的な汚染土壌を対象とした対策に力を入れている。特に転炉スラグを用いた土壤 pH 矯正は、従来の土

壤消毒技術と比較して、効果が複数年期待できることやクロルピクリン剤を使用しないという利点から、本病の実用的な対策として大きな期待が寄せられている。本講演では、岩手県で進められている転炉スラグによる土壌 pH 矯正技術の概要や適用場面について紹介する。

(4) 徹底した土壌診断により産地を守る取組み

14 : 45～15 : 15

宮城県大河原農業改良普及センター 技術主査 尾上 智子  
宮城県刈田郡蔵王町 キュウリ生産者 佐藤 正良

宮城県では2005年に施設栽培で本病の初発が確認されていたが、その後露地栽培では未確認の状態であった。しかし、実用化事業の取り組みにより、顕著な被害が確認されていない露地キュウリの産地においても、潜在的汚染圃場が認められた。そこで、産地の網羅的な土壌診断と、それに基づく予防措置の導入が行われている。研究者、普及指導者及び生産者が一体的に推進する現地実証試験の概略を紹介する。

(5) 遺伝子診断の活用による県域全体を網羅した土壌診断の展開

15 : 15～15 : 45

秋田県病害虫防除所 副主幹 戸澤 清徳  
秋田県立大学 生物資源科学部 教授 古屋 廣光

秋田県では2008年にメロンで本病の初発が確認され、その後キュウリ産地にも局所的な発生が認められている。この段階で秋田県では、今後の拡大を最小限に止める努力として、県域全体を対象とした広域土壌診断を実施している。その中で活用されたのが、生物検定法に比べて短時間で判定できる遺伝子診断法である。遺伝子診断を活用して潜在的な病原菌分布を把握する取組の概要、及び診断後の対策について紹介する。

〈休憩・ポスター展示／個別相談〉

15 : 45～16 : 15

4. 総合討論

16 : 15～17 : 15

座 長：農研機構東北農業研究センター 環境保全型農業研究領域 主任研究員 永坂 厚  
パネラー：講演者

報告内容を受けて、被害の顕在化や汚染土壌の拡大程度に応じて採るべき対策の違い、それぞれの状況で有効な技術的な対応について広範に議論する。

5. 閉 会

17 : 15

◇開発技術の展示・相談コーナー（開会前12：00～12：50、休憩時15：45～16：15）

ホモブシス根腐病の総合防除技術対策の事例をポスター等により展示・紹介するとともに、技術相談を行います。

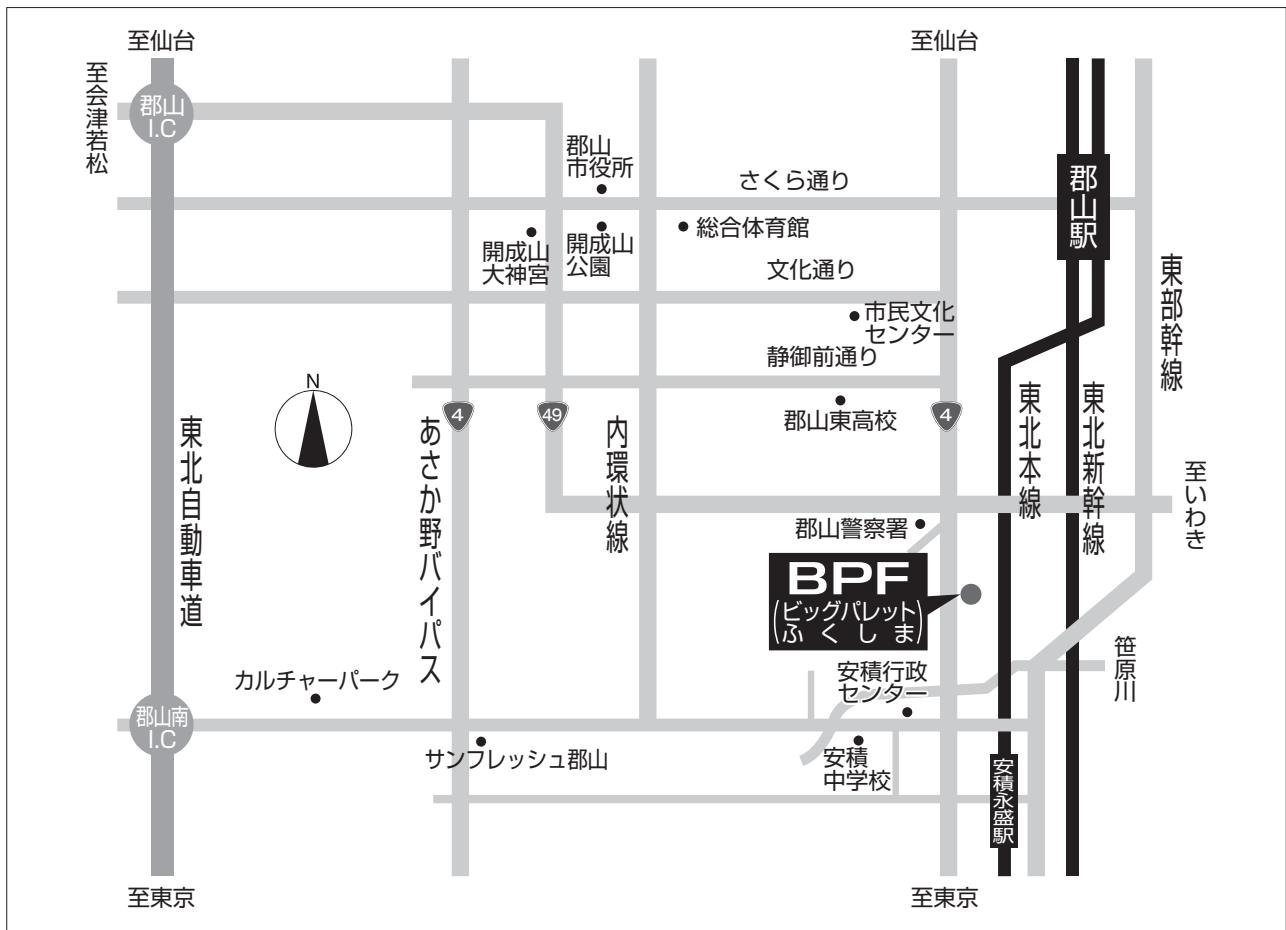
## 〔会場案内〕

### ビッグパレットふくしま 3階 中会議室

福島県郡山市南2丁目52 (〒963-0115)

電話 024-947-8010

## 〔会場へのアクセス〕



- 郡山駅から約4km、車で約10分  
バスで約15分：1番乗り場「ビッグパレット」下車  
※(栄町)柴宮団地行き以外にご乗車下さい。
- JR安積永盛駅から約2km、車で約5分、徒歩で約30分
- 東北自動車道 郡山南インターから約7km、車で約15分

〔駐車場〕敷地内の南側に無料駐車場(844台)があります。

## 〔問い合わせ先〕

農研機構東北農業研究センター 企画管理部情報広報課

電話：019-643-3414 FAX：019-643-3588 e-mail：www-tohoku@naro.affrc.go.jp



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。